

令和7年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物

指導者 呉市立広小学校 沖村 綾花
第5学年 3組 28名

1 単元名 文化を受けつぐって何だろう？—情報を重ねて考えよう

「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」（東京書籍「新編 新しい国語 五」）

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)オの指導事項「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」を受けて設定している。

「文章を読んで理科したことに基づいて、自分の考えをまとめる」力を育成するには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したことを基に既知の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成したりすることが必要となる。

本単元で扱う教材文「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」は、伝統的な和の文化に関するものの中でも児童が想起しやすい和菓子を題材としたものであり、和菓子について「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人」の三つの観点から説明している。また、教材文だけでなく和菓子職人であるビル・リオングレローさんのインタビュー記事が資料として掲載されており、海外出身の職人が和の文化を受け継ぐための苦労、作り手としての願いを知ることで、別の視点から「文化を受けつぐ」ことについて考えることができる。また、資料と教材文を結び付けて読むことで、それぞれの内容の似ているところや違うところに注目し、根拠を基に自分の解釈を深めることができる。こうした読み方をする中で、文化を受けつぐとはどういうことなのか、児童自身の既知の知識や経験と結び付けて考えをまとめることができると考える。以上のことから、自分の考えを形成する力を育成することに適した教材であるといえる。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期に説明的な文章「インターネットは冒険だ」を読み、叙述を基に文章全体の構成を捉えて要旨を把握する学習を行った。その際、筆者の意見に対する自分の意見を、今までの経験を想起しながら言語化してきた。しかし、本単元で身に付けたい力である、文章を読んで理解したことに基づいて既知の知識や経験や理解した内容と結び付けながら自分の考えを形成していくことができる児童はまだ少なく、7割程度であった。できていない3割の中には、既知の知識や経験は書いているものの、それが自分の考えと繋がっていなかったり、そもそも文章の内容に即した既知の知識や経験が想起できていなかったりする児童が多かった。本単元の教材文は、絵や年表、写真など、文章の内容理解を助けるためのたくさんの資料が使われており、資料と本文、資料と資料などを結び付けながら文章の内容を解釈しなければならない。本学級の児童には、スモールステップで確実に多くの情報を整理し、これらを結び付けながら文章に対する自分の考えを形成し、まとめることができる手立てが必要であると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、単元の導入の際に身の回りにある和の文化について具体的に想起できるよう、思考ツールの一つであるウェビングマップを活用する。季節や年中行事、伝統芸能、文化など分野ごとに分けて書き込ませ、学習支援アプリで共有することにより、私たちの身の回りには複数の和の文化が存在するを感じられるようにしたい。文章を精査・解釈する場面では、本文と資料、図表から読み取った情報を重ねて考えることができるように、叙述に印を付けたり、線を引いたりして注目させたい部分を可視化できるようにする。読み取った情報と情報を結び付けて文章の内容を解釈した上で自分の考えを形成する際には、次のような手立てを講じる。まず、文化を受けつぐ経験を「経験カード」に書かせる。それを読み合うことで既知の知識や自分や友達の経験と結び付けながら「文化を受けつぐ」とはどういうことなのかを考えられるようにする。また、「考えまとまるガイド」という、自分の考えと既知の知識や経験の関係が一目で分かるようなワークシートや、「お世話シート」という整理した思考の流れに沿って書き入れることで、容易に文章化できるワークシートを準備する。こうしたワークシートを用い、読み取った情報や文章の内容についての解釈、そこから形成した自分の考えをスモールステップでまとめさせ

る。これらのワークシートは貼り合わせて冊子にし、学習の記録を手元に残しいつでも見返せるようにする。更に、学習支援アプリで教員の手本や友達の考えを共有して、必要に応じて参照できるようにすることで、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。このような手立てを行うことで、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる力を高めていきたい。

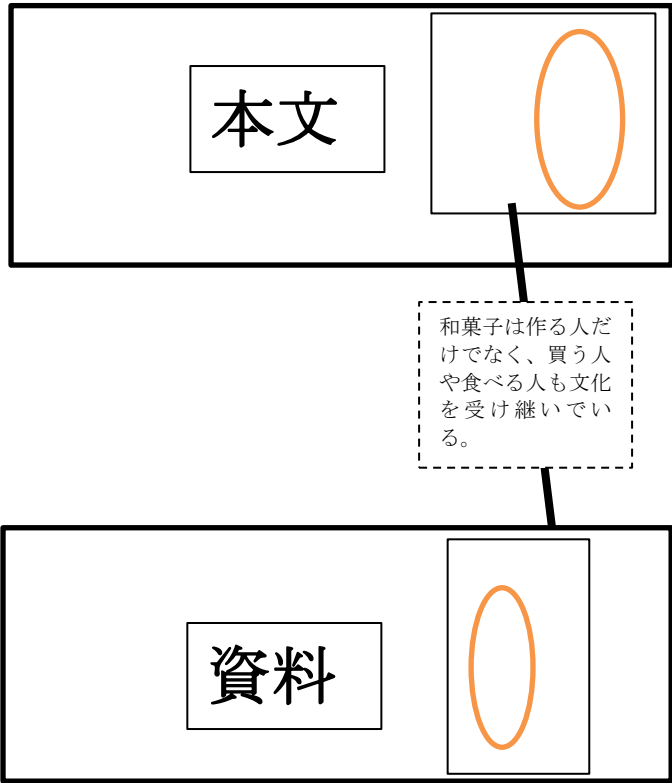
3 単元の目標

- 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関連の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2) イ)	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C (1) オ)	① 積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、学習課題に沿って、自分の考えを書き表そうとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て
知識・技能①	<p>情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2) イ)</p> <p>◎ワークシート 本文と資料の内容を理解して点線の枠に情報と情報とを関係付け、短くまとめている。</p> 	<p>「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの文章に共通する語や内容を手掛かりに、関係するところを探そう促す。

		<p>関係付ける内容（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆和菓子を作る職人について書いてある（⑬段落、P157） ◆和菓子の世界は奥深いものである（P156L5、P157L11） ◆和菓子は季節や行事との深い関わりがある（⑧段落、P157L10） ◆歴史の中で新しい和菓子を作り、和菓子は発展してきている。（②～⑥段落、和菓子の歴史年表、P157③段落） ◆和菓子は作る人だけでなく、道具や材料を作る人、食べる人多くの人に支えられている。（P156L3、P157L31） 			
<p>思考・判断・表現①</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C（1）オ）</p>	<p>◎ワークシート（お世話シート）</p> <p>赤字の部分に文章を読んで解釈したことと、自分の知識や経験を結び付けて形成した自分の考えを書いている。</p> <table border="1" data-bbox="462 571 1109 772"> <tr> <td data-bbox="462 571 790 772"> <p>本文から読み取った情報 P156 L3 和菓子は作る人だけでなく、食べる人も受け継いでいる。</p> </td> <td data-bbox="790 571 1109 772"> <p>資料から読み取った情報 P157 L30 職人は、おいしいと食べてくれる人のおかげで頑張ることができる。</p> </td> </tr> </table> <p>関係付けた内容 和菓子は作る人だけでなく、買う人や食べる人も文化を受けついでいる。</p> <p>自分の解釈（2つを関係付けることで分かったこと） 最初、文化を受けつぐとは和菓子を作る職人たちしかできないことだと思っていた。しかし、教材文と資料を結び付けて読んでみると和菓子を食べる人も文化を受けついでいるということが分かり、私も和菓子職人に「美味しかった。」と伝えていくことで文化をついでいけるのだと考えた。</p> <p>そこから自分は… 私は毎年お正月になるとおばあちゃんが作ってくれたおせち料理を親戚みんなで食べる。今まではおせちを作っているおばあちゃんだけが、その文化を受けついでいるのだと思っていた。しかしこの和菓子の学習を行うことで、おせち料理を食べているわたしたち家族みんなも文化を受けついでいることに気が付いた。 （決意）これからは和菓子職人に伝えるようにおばあちゃんにも、「美味しかった」と伝えていきたい。そして道徳の授業で習ったおせち料理の食材一つ一つには意味や願いがあることを今度はわたしが親戚みんなに教えてあげたい。</p>	<p>本文から読み取った情報 P156 L3 和菓子は作る人だけでなく、食べる人も受け継いでいる。</p>	<p>資料から読み取った情報 P157 L30 職人は、おいしいと食べてくれる人のおかげで頑張ることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠となるようにまとめるよう伝える。 ・学習の導入時に、「和の文化」について自分の経験や既存の知識を書いた「みんなの経験ブック」を作成し、それが必要に応じて見ることができるようにする。
<p>本文から読み取った情報 P156 L3 和菓子は作る人だけでなく、食べる人も受け継いでいる。</p>	<p>資料から読み取った情報 P157 L30 職人は、おいしいと食べてくれる人のおかげで頑張ることができる。</p>				
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、学習課題に沿って、自分の考えを書き表そうとしている。</p>	<p>◎児童の姿・発言・ワークシート（考えまとまるガイド）</p> <p>積極的に友達や先生から得た助言から、文章を読んで理解したことについて、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えをまとめ、書き表し方を工夫している。</p> <p>読み合った際に他の児童から得た助言や、教師からの指導を踏まえて自分の考えを述べた文章を読み直し修正するなど、粘り強く考えの形成を行おうとしているか評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書をすることで和菓子そのものや伝統的な文化について理解が促されるように、和菓子について書かれた本をはじめ、伝統的な文化や産業について書かれた本を教室に置いておく。 ・「みんなの経験ブック」を参照させ、自分と似た経験はないかなど想起させる。 		

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
一	1・2	<p>課題把握 「文化を受けつぐ」とはどのようなことか自分の考えをまとめよう。</p> <p>○身の回りにある「和の文化」には何があるか（思考ツール、ウェビングマップを用い、分野ごとに手分けをしてより多くのもを出すようにする。その後、学習支援アプリで交流する。）</p> <p>○「文化を受けつぐ」とはどのようなものだと思うか最初の考えを書く。この際、目的意識と相手意識を確認する。</p>				
二	3・4	<p>○本文「和の文化を受けつぐ」を読んで要旨をまとめる。 ・本文中の図表と本文を結び付け、どの図表が本文のどこを詳しく説明しているか読み取る。</p> <p>○資料「和菓子職人リオングレローさんのインタビュー記事」を読み取り、本文と重ね合わせて読む。 ・本文と資料の文章の共通しているところや、関係するところを、線を引いたり四角や丸で囲むなど印をつけたりしながら結び付け、読み取ったことを短い言葉でまとめる。</p>	○			<p>[知識・技能①] ワークシート</p> <p>・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っているかの確認</p>

	5 ・ 6 ・ 7 (本時) ・ 8	<p>○ワークシート「お世話シート」を使うことで、本文と資料から読み取った内容を踏まえ、関係付けた内容、自分の解釈と決意を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文と記事を重ねて読んで理解したことに基づいて、既存の知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめる。 <p>○ワークシート「考えまとまるガイド」を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文と資料を踏まえて「文化を受けつぐ」ことについて、自分の考えをまとめる。 <p>○書いたものを交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アプリの共有ノートを用い、自分の書いた文章を読み合い、付箋紙で相互評価していく。 <p>○4年生に読んでもらい、感想をもらう。</p>		○	<p>[思考・判断・表現①] <u>ワークシート「お世話シート」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめているかの確認 <p>○ [主体的に学習に取り組む態度①] <u>児童の様子・ワークシート「考えまとまるガイド」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に友達や先生から得た助言から、文章を読んで理解したことについて、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えをまとめ、書き表し方を工夫しているかの確認
三	9 ・ 10	<p>○学習過程を振り返り、情報を重ね合わせて読むときに、どのような点に着目して読むとよいか、ここで学習したことが今後どのような場面で生かされるかを考える。</p>			

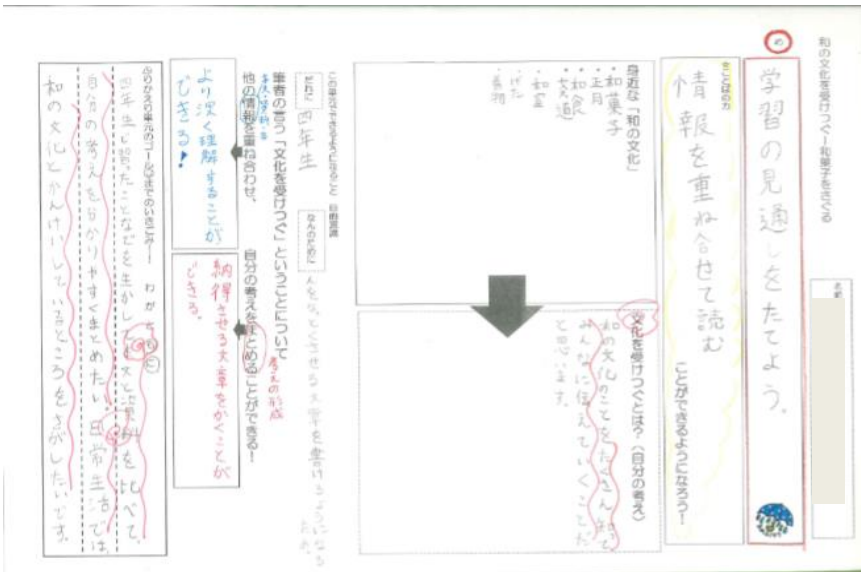
6 本時の学習

(1) 本時の目標

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。【思・判・表】

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>1 前時の学習を振り返る。 ・ワークシート「お世話シート」にて、本文と資料（+本）から読み取った情報から自分が関係づけた内容と解釈を確認する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">本文と資料で読み取った情報から自分の決意を考えよう。</div>		
<p>3 本文と資料を音読する。</p> <p>4 ワークシート「お世話シート」を読み、「文化を受けつぐ」とは何か自分の考えを文章にまとめる。</p> <p>5 自分で考えた「文化を受けつぐ」ことについてできることを考える。（決意）</p> <p>6 全体交流をして読み合う。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○教師が合図を出すまで丁寧にゆっくり読むように指導する。</p> <p>○「お世話シート」に書いてある本文と資料から読み取った内容から解釈した内容と、自分の考えが繋がるように意識させる。</p> <p>◆学習支援アプリに教師の手本を送り、書く時の参考にするこゝで見通しがもてるようにする。</p> <p>◆学習支援アプリの提出箱で共有している「みんなの経験カード」を参考にするこゝで、自分の知識や経験を基に自分の考えを書きやすくする。</p> <p>○自分で考えた「文化を受けつぐ」ことと自分の決意が繋がっているか確認をするよう声かけをする。</p> <p>○全体交流をすることで、自分の考えがきちんと伝わる書き表し方になっているか確認したり、友達の考えを参考にしたりするよう声かけをする。</p> <p>○本時の学習を通して、分かったことや頑張ったこと、次につなげたいことを書く。</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（思・判・表） (ワークシート)</p>



本文や資料を基に自分の意見を考え、納得させる文章を書いて4年生に読んでもらうことに決まった。
【目的意識・相手意識の明確化】

写真3 単元における学習課題及び到達目標を共有したワークシート

イ スモールステップで文章を精査・解釈

- 本文の要旨と資料の内容を読み取る際には、一つ一つの言葉や表現に着目し、本文と図表を結び付け、線を引いたり四角や丸で囲んだり印をつけたりしながら丁寧に読み取った。

序論	結論	本論① (和菓子の受けつがれ方)	本論② (ほかの文化との関わり)	本論③ (和菓子の歴史)	序論	結論
①	②	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	①	②
終わりに	終わりに	中3	中2	中1	中1	中1

写真4 文章構成（序論・本論・結論）と要旨をまとめたワークシート

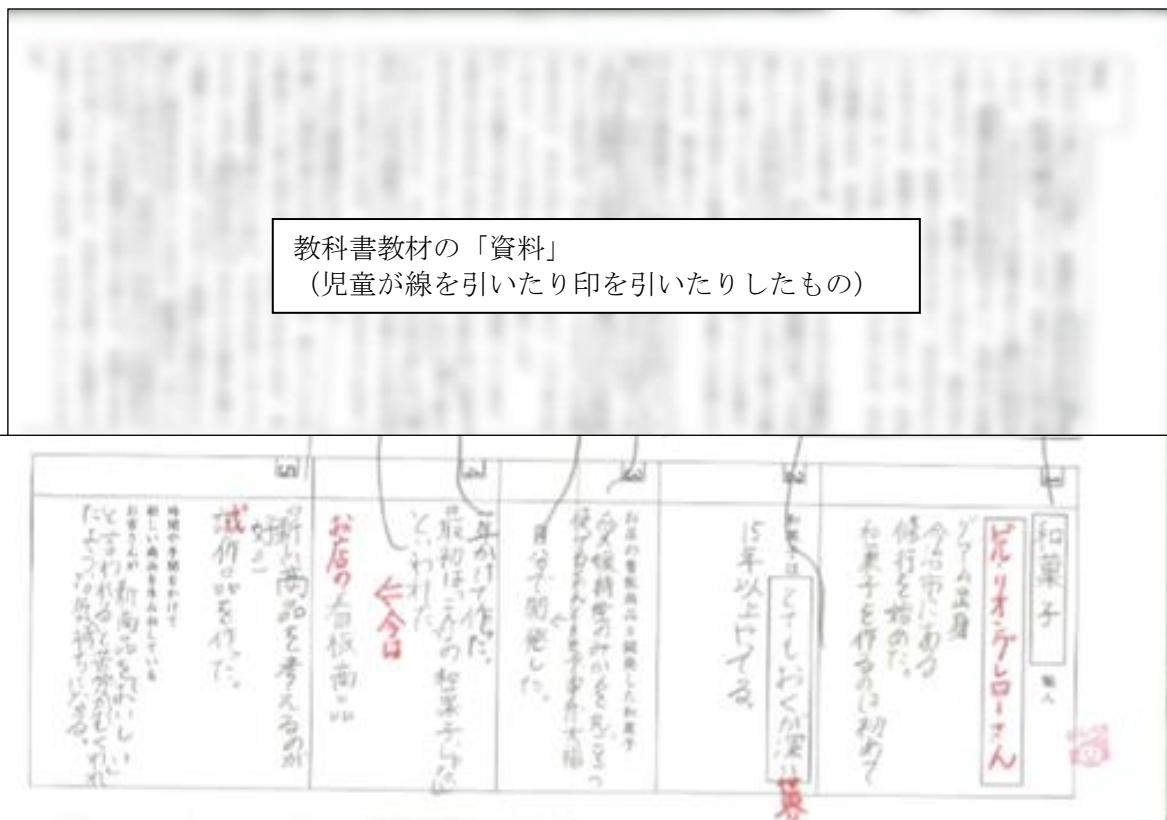


写真5 資料を読む際に用いたワークシート

- 本文と記事を重ねて読む際には、本文と資料の全文を上下に配置したプリントを活用した。共通して書かれている内容や、資料を読むことでより深く理解できるようになった本文の内容を見付け、線を引いたり四角や丸で囲むなど印をつけたりした。

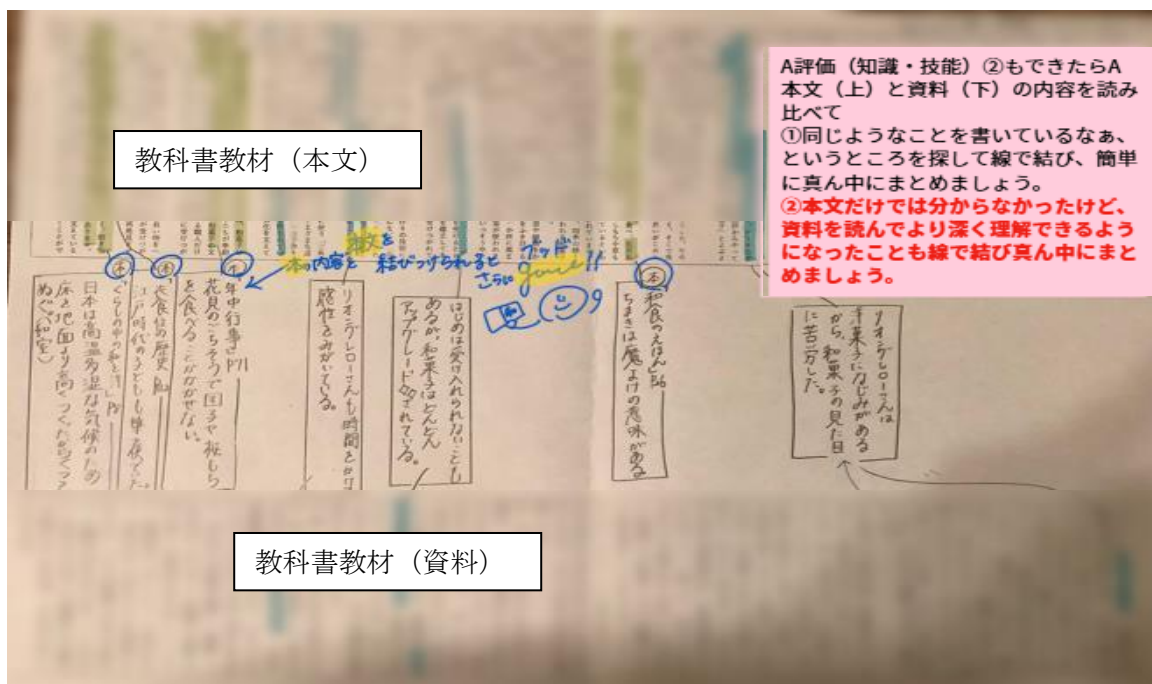


写真6 ルーブリック評価「十分満足できる」状況にある例として児童に例示したワークシート

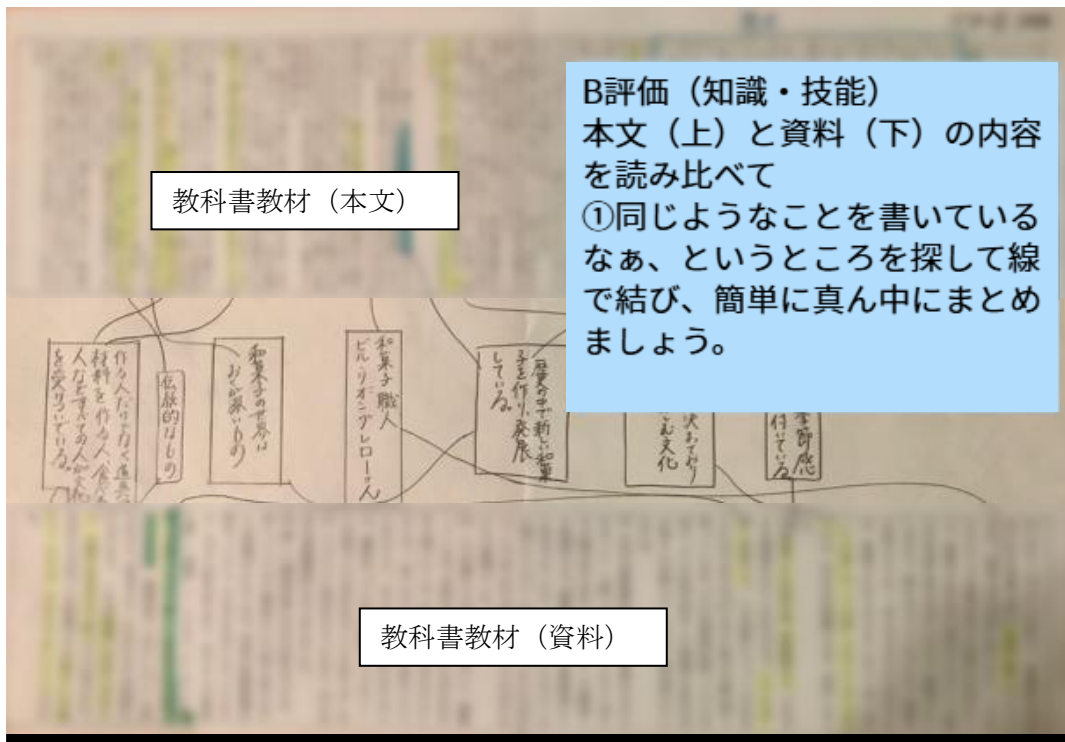


写真7 ループリック評価「おおむね満足できる」状況にある例として児童に例示したワークシート

- 本文と記事を重ねて読んで理解したことに基づいて、既有的の知識や経験と結び付ける際には児童の思考整理を世話するという名目で名付けた「お世話シート」と、整理した情報を文章にまとめる「考えまとまるガイド」を使用した。「お世話シート」は、構造的な作りで児童の文章を組み立てる際の思考の補助を行うことができるようにした。例えば、教科書や資料の情報をそのまま抜き出して記述し、その下には情報と情報を結び付けて関係づけた内容を書くことができるようになっている。さらにその下には関係づけた内容から考えた自分の解釈を書き入れ、そこから自分は文化を受けつぐためにどうするのか（決意）を順番に書き入れることができるようにした。そして、「考えまとまるガイド」には「お世話シート」で整理した思考の流れに沿って書き入れることで、容易に文章化できるようにした。

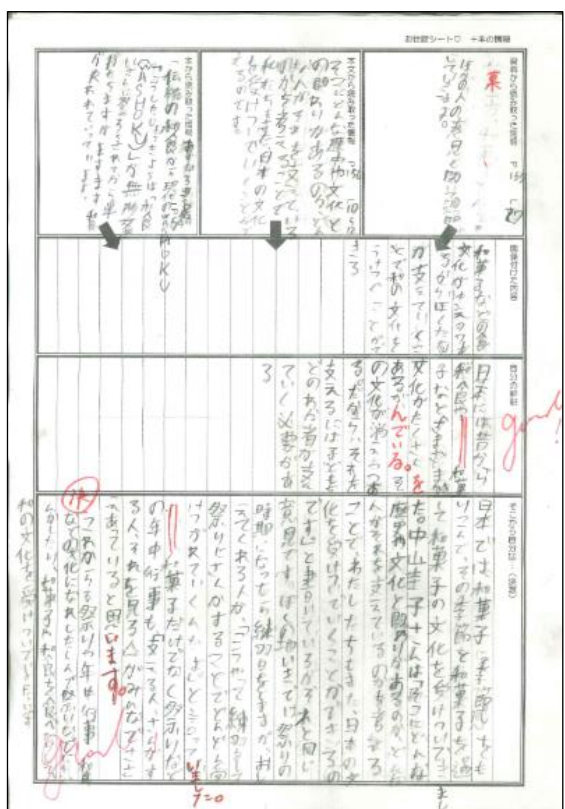


写真8 「お世話シート」

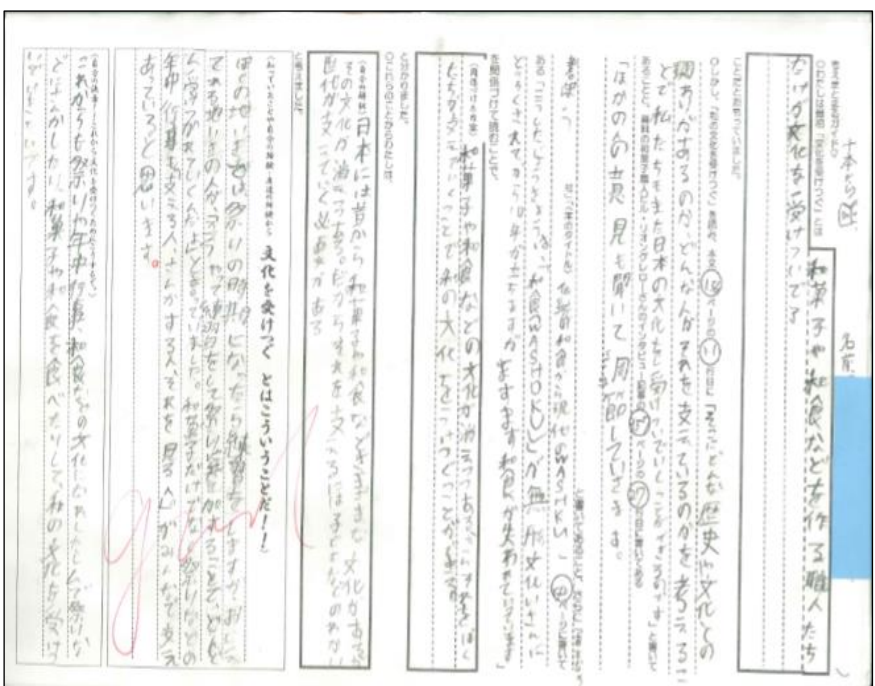


写真9 「考えまとまるガイド」

ウ 学習のまとめ・振り返り

- ・ 学習成果物作成時は児童が使い慣れており、加筆・修正がしやすい文書作成ソフトを使用した。

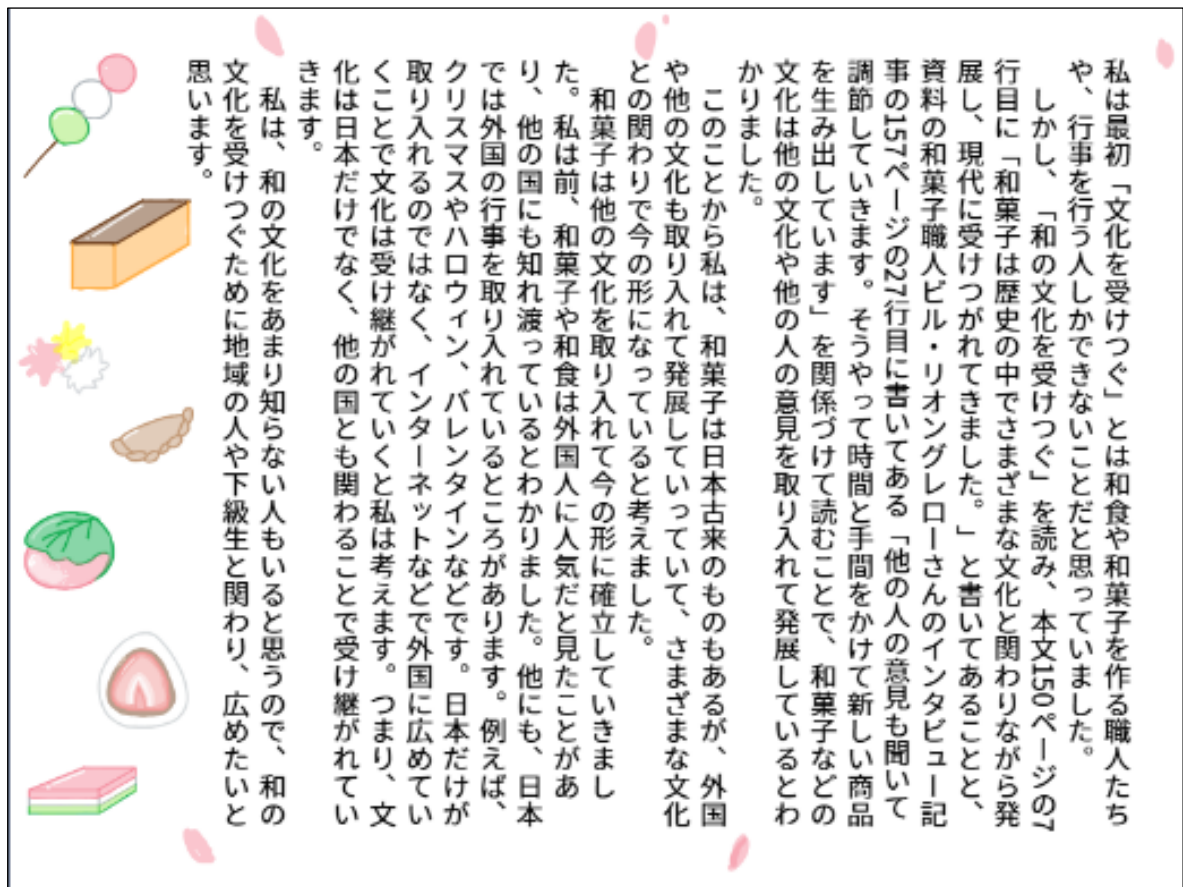


写真 10 児童が作成した学習成果物の例

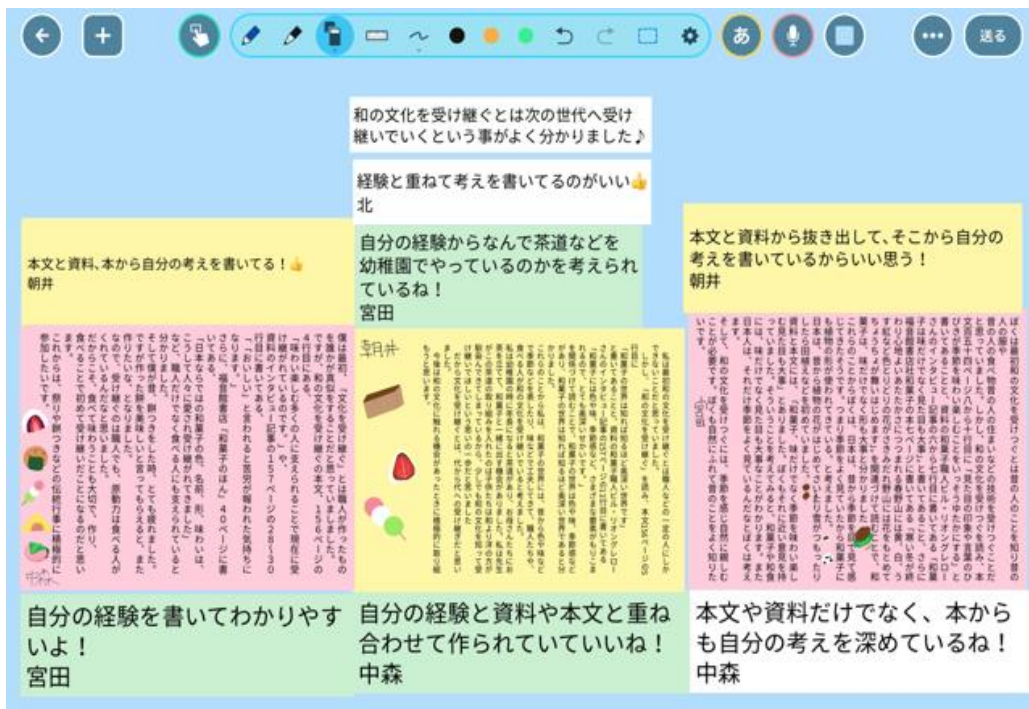


写真 11 児童同士で学習成果物を読み合い評価した共有画面の例

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

ア 知識を増やし考えを深めるための手立て

- ・ 読書コーナーを作成し教室環境の充実化を図った。 和の文化について具体的な想像ができない児童は読書をすることで和菓子や和食、伝統行事など自分の経験を想起するきっかけとなった。



国語の時間だけでなく、朝の読書タイムや学習の合間、給食後の時間にも声かけをして読書ができるようにした。これにより読書に親しみのない児童も読書コーナー付近では、どの本が参考になる、面白いなどの会話が生まれ、意欲的に並行読書に取り組んでいた。

写真 12 並行読書の推奨

- ・ 経験したことがある文化の内容について想起しながら「経験カード」を書き、タブレット端末のデータに溜めていった。それを学習支援アプリの提出箱に送り学級全体で共有することで、他の児童が書いた内容を参考に自分の考えをまとめる児童もいた。特に既有的知識や経験が乏しく、想起することが難しい児童は自分の考えを裏付ける知識や経験を想起する際、「経験カード」を活用することができた。

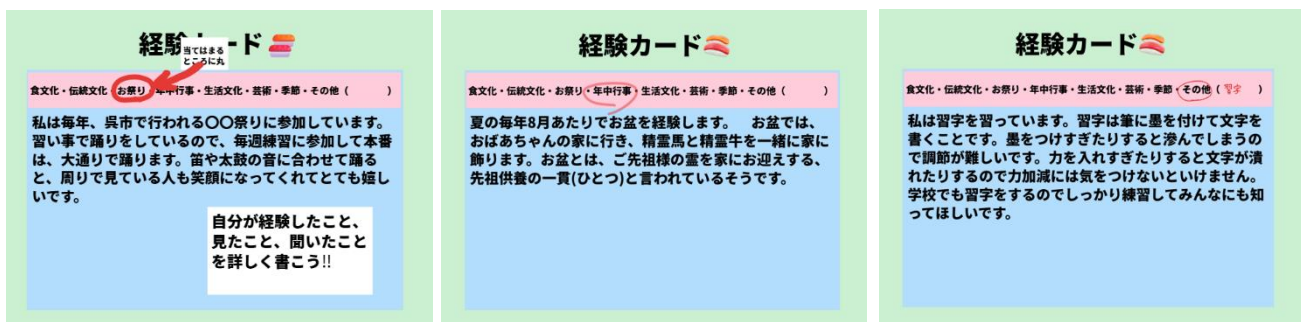


写真 13 教師が示した経験カードの例（左）と児童が作成した経験カード

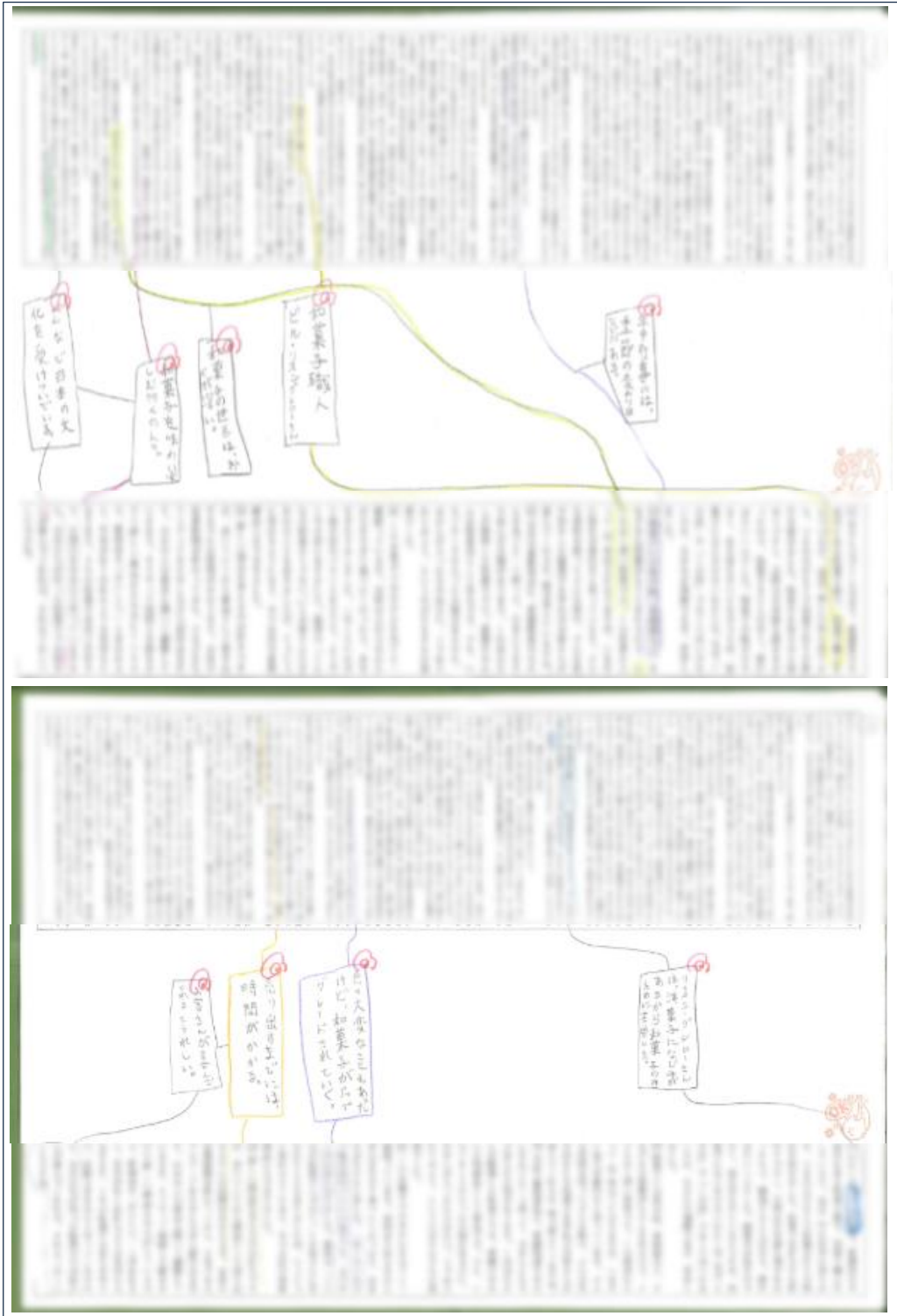
8 評価の実際

(1) 評価の具体

知識・技能

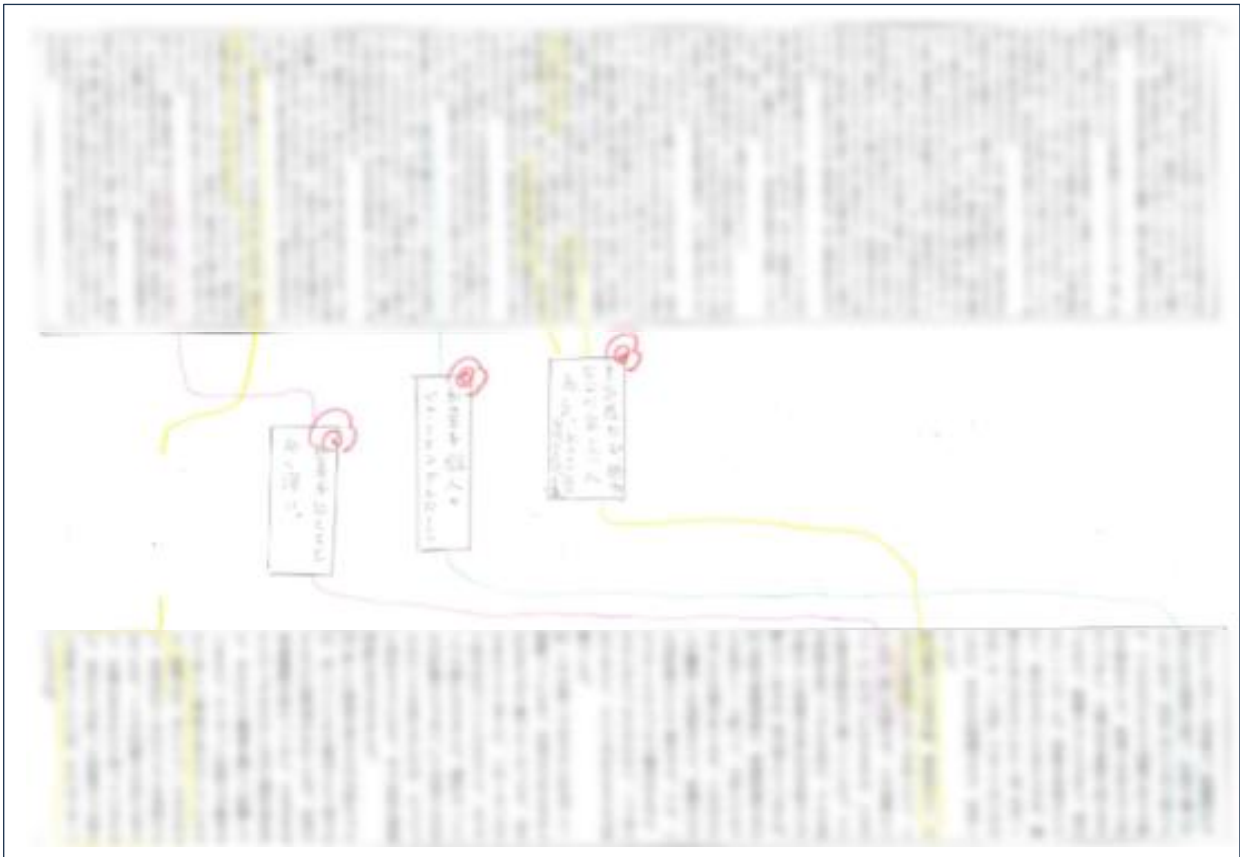
「十分満足できる」状況（A）にある児童

本文と資料の内容を理解して情報と情報を関係付け、的確に短くまとめている。かつ、資料を読んでより本文の内容を深く理解できたこと、または、本文の情報を活用し資料の内容をより深く理解できたことを線で結び、的確にまとめている。



- この児童は、本文「洋菓子」の説明と、資料「リオングレローさんがガム出身である」を結び、「リオングレローさんは洋菓子に馴染みがあるから和菓子の見た目に苦労した。」とまとめている。これは、ガム出身のリオングレローさんは和菓子には馴染みがなく、和菓子特有の色や形、その背景にあるものを理解することが難しかったことを理解できていると評価した。

「おおむね満足できる」状況（B）にある児童
本文と資料の内容を理解して情報と情報を関係付け、短くまとめている。



- 2つの文章に共通する語や内容に印をつけ線で結び、短くまとめている。
- 本文「季節の風景や植物をかたどった和菓子が作られる」と資料「和菓子には色や味、季節感など、さまざまな要素がもりこまれる」を結び付け「和菓子には季節感や植物などの要素がある。」とまとめている

「おおむね満足できる」状況（B）にある児童
 本文と記事を重ねて読んで理解したことに基づいて（赤枠部分）、既有的知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめている。

お母さんシート

<p>本文から印象に残った言葉 コーティング 見た目の印象や言葉の響きが 木子^{キコ}が即を味わい 白木^{シロキ}しむこととさうい とうゆたかなも のにいます。</p>	<p>見たり聞いたりした言葉 p1-p9 見た目もだいたいな のですが、和菓子 になじみのないわ たしはなせこの色 やこの形ではな はいけないのか なか理解できず 苦労しました。</p>
<p>和菓子は見た目や色形がさつまているといえます。</p>	<p>和菓子は白の菓子の文化を知り伝えた人ではないので、これら（和菓子の形）が色を知りてたたくさんの人でつなぐのだったと 思います。 文化を伝えることは昔にもたまたまおきたりしたことがつづいてきたことだと考えました。</p>
<p>私は、毎年冬になったらおばあちゃんちでおせちを食べています。 おせちの中は、えびだてまき、 蓮豆、 次世代がけいけんして、 ことだと考えました。 次の世代に受けついでいくことに、 文化を伝えることは昔のこと ではないとおもひます。こ れからも次の世代につけて いくべきだと思います。</p>	<p>和菓子は白の菓子の文化を知り伝えた人ではないので、これら（和菓子の形）が色を知りてたたくさんの人でつなぐのだったと 思います。 文化を伝えることは昔にもたまたまおきたりしたことがつづいてきたことだと考えました。</p>

gnd

(2) 児童の評価

本単元を終えて知識・技能において「十分満足できる」状況（A）にあると評価した児童が18%、「おおむね満足できる」状況（B）にあると評価した児童が73%、「努力を要する」状況（C）にあると評価した児童が9%であった。

思考・判断・表現においては、「十分満足できる」状況（A）にあると評価した児童が36%、「おおむね満足できる」状況（B）にあると評価した児童が41%、「努力を要する」状況（C）にあると評価した児童が23%であった。

主体的に学習に取り組む態度においては、「十分満足できる」状況（A）にあると評価した児童が22%、「おおむね満足できる」状況（B）にあると評価した児童が74%、「努力を要する」状況（C）にあると評価した児童が4%であった。

9 成果と課題

(1) 成果

- 単元の導入時に、教師が作った成果物の見本を見せて説明したことで、本単元で身に付ける力や、何ができればよいのかということの共通理解が図れた。その際、国語科「くらしの中の和と洋」を学習している4年生に文化を受けつぐとはどういうことか伝えたい、という思いから4年生に分かりやすい文章を読んでもらいたいという目的意識・相手意識が生まれ、主体的に学習に取り組む態度に繋がった。また、「伝承ブック」と称した冊子を作り学習したワークシートを順に貼っていくことで、前時までの繋がりが分かりやすく、考えの形成を行う際にも既習学習を振り返ったり、友達と見比べたりして活用している児童を多くみることができた。これは、前時までの学習内容を想起することができ、学習を進めるうえで効果的であったといえる。
- 考えの形成を行う際には、いきなり全てを文章化するのではなく、教科書の資料と本文から読み取った内容、そこから考えたこと（解釈）、文化を受けつぐとは何か、自分の決意というスモールステップで行ったことで、より部分と部分の繋がりを意識することができた。また、それらを「お世話シート」と称した図表にまとめることで、文章同士の関係性が明確になり整理することができた。後に「お世話シート」の図表から「考えまとまるガイド」という書き方の型を示したものに、対応する文章を書いていくことで、普段自分の考えを書くことが難しい児童も自分の考えをスムーズに考えをまとめた文章を書くことができた。これは思考力・判断力・表現力等の育成に効果的であった。

(2) 課題

- 本文と資料から読み取った内容と解釈から「文化を受けつぐ」とは何か自分の考えを書くことが難しく、文章の内容の解釈と「文化を受けつぐ」とは何かについて考えた内容が繋がらない児童がいた。「お世話シート」の段階で、解釈の欄には自分の考えも含めた内容を書かせて、決意欄には自分のこれからの行動（決意）だけを書かせるようにした方が、文章化させたい要素同士の繋がりのある文章が書けたのではないかと考える。
- 情報を重ね合わせる際に使用した本文と資料の本文を上下に配置したワークシートは、文章量が多く文章を読むことに抵抗がある児童にとっては情報を整理しにくかった。対策として、本文や資料の情報を図表やキーワード等で整理し、視覚的に捉えやすい教材提示を工夫することで、情報量を調整し、児童が段階的に内容を理解できるようにしたい。
- 考えの形成における思考の過程を、どの段階でどのように評価するかについて評価規準の設定が難しかった。今後は、形成途中の考えを交流させる場を設け、児童自身が思考の深まりを自覚できるようにするとともに、その過程を評価に生かしていきたい。
- 「努力を要する」状況（C）にあると評価した児童のうち2名は、日本語指導を要する児童や特別支援的な手立てが必要な児童であった。学習に入る以前から日本語学級の教師と連携をとったり、保護者と連携をとったりする必要があると考えられる。

(3) 今後に向けて

- 標準学力調査や全国学力学習状況調査にも、情報と情報を重ね合わせ文章の内容を理解した上で、自分の考えを形成する問題は多く出題されている。今後は、情報を整理したり関連付けたりする思考の手順を明確にするとともに、発問や教材提示を工夫し、児童一人一人が考えを形成しやすい授業づくりを進めていきたい。
- 今単元では多くの児童が学習課題に粘り強く取り組み、考えをまとめようとする姿が見られ

た。一方で思考を言語化することに難しさを感じる児童への支援や、「考えの形成」をどのように評価するかという点に指導上の課題を感じた。今後は、国語科だけに限らず他の教科の学習とも関連付けながら、個に応じた支援の工夫や評価規準の改善を図り、考えを形成する力を継続的に育成していきたい。